

青森県
秋季高校野球

光星よもや 初戦敗退

東義4回逆転 コールド

1回戦

八学光星 201000000
東義 00000010103
(8回コールド)
○ 斎藤、遠藤、横山、
森、森下、中澤
● 山内、坪田、齋藤、
原田

▽三塁打 佐藤宏、原田
山谷、小田桐、北川(東)
▽暴投 斎藤(八)
▽試合時間 2時間19分
球審 梅田、塁審 関、
福永、秋元
【評】東義は3点を追う
四回無死、山、佐藤宏、
原田の3連打で1点差に追
るも、芳賀、坪田、山谷の
者にコールド勝ち。序盤は

投打かみ合わず完敗



【八学光星 東義】6回東義2死1一塁、9回コールドを広げる北川審の右前打で、生還する二走川柳馬(右)と、送球を受ける光星の中澤英明捕手。弘前はるか夢

センバツ絶望的

まさかの展開だった。秋季県大会連覇、4季連続の甲子園を目指した八学光星が県大会初戦、無念のコールドで敗退。中澤英明主将は「相手の勢いを止められなかった守り。劣勢をひっくり返せなかった打力のなさ。全てがかみ合わなかった」と潔く完敗を認めた。初回到相手のミスも絡んで2点を奪い、三回にも追加点を挙げたが、流れが一変したのは四回。先発の左腕奈良龍飛が先頭から3連打を浴びて1点差に詰め寄られると、その後も四球や内野安打などで悪い流れは止まらず。救援した遠藤雅也も甘い球を捉えられ、一挙6失点で逆転を許した。頼みの打線も相手投手陣を打ちあぐね、長打はゼロ。伝統の強打は鳴りを潜めた。仲井宗基監督は「新チームに自分が合流したのは

数日前。実戦を積んでいない中、厳しい試合をさせてしまった」とナインをおもんぼかった。本来主戦候補だった選手が練習試合で右手を負傷し、扇の要となるはずだった中澤主将も8月に腰椎を疲労骨折するなど、チーム状態は決して万全ではなかった。中澤主将は「自分が最初から出ていたら、こんな結果にはなっていないかった。自分のせいでチームが負けた」と唇をかんだ。ただ、今夏の甲子園で8強入りを果たした現3年も、今春の県大会の悔しさをばねに奮起し、結果につなげた。指揮官は「また鍛え直し。時間はある」と言い残して球場を去った。来夏の雪辱へ、長い「冬」が始まった。(林泰輔)

守備の乱れも絡んで3点を「いは付いたと思う。次も粘り強く戦い抜きたい」と闘志を燃やした。東義・小田桐裕也主将(15安打10得点の大勝)「みんな大振りせず、コンバクトに振ってつなく意識を徹底した結果」八学光星・横山大輔(全戦、四回途中から救援も3失点)「まだまだ力が足りない。直球もスピードが出ず、高めに浮いた球を打た